

記念品にて
自宅へ送付

フェース枕マットレスで寝ながら鑑賞の1万メートルの旅

100%安全の深海観光艇

酸素ボンベと食料
備蓄で1週間生存

海底に錘が衝突するとフックがはれる仕組み

二段階の錘切り離し装置

「深海観光艇」は世界初の内容が多く、世界が注目し、1万m級の深海は金に余裕のある人なら誰でもが一度は行ってみたい場所であり、超高額(100万円)でも予約殺到大繁盛間違いなしですので、スタートUP事業で、公募をされたらよいと考えています。

<背景技術>

世界で最も深い海はマリアナ海溝のチャレンジャー海淵は、深さが10920mで、この深度の高水圧では、深海探査船の設計及び運用が極めて困難であり、わずか4回の潜航が達成されたのみです。

しかしながら、よく考えてみて欲しいです。大型(バッテリーや酸素ボンベ等の重量物を数多く搭載するため、人も100人を超える仕様で浮力を確保するため)の完全球体で、堅固な二重構造やハニカム構造等で、ひたすら強度UPを図り、浮力装置やスクリュウ等の高水圧で不具合の発生の可能性のある可動部を排除すれば、余裕をもって成立すると考えています。(なぜなら、1万mの深海で暮らす動物がいるからです。また、細長い形状の潜水艇が成功している事実があり、完全球形なら、原理的・物理的に成立します。)

深海観光艇は、深海に移動するときはおもりを使い、深海から浮上するときにはおもりを外し、深海底単体の浮力を使うもので、重要なポイントは海底に到達したときにおもりが100%確実に外れる(二重の切り離し装置)ようにすることです。

<世界初の内容>

1. 1万メートルの深海底に安全に人が行けること。
2. 立体角360度のリアルな海底映像が楽しめること。
3. フェース枕を使つての下側(床側)の映像も見られること。
4. マイク&ヘッドホンにより、AIと直接母国語で話せること。
5. 動力がないのに1万メートルも安全に移動できること。

<公募内容>

1. (人を載せない)ミニシア版でのトライアル実証実験の概要
2. 実際に人を100人乗せる実物大の深海「観光探索艇」の概要
3. 継続的に儲かる&安全な運営形態の概要

公募してきた団体によるプレゼンの段階で、優秀な3団体を選出し、トライアル実証実験の内容を精査した上で、1. 項に関して東京都が費用を出す。
 (↑数億以内と想定)

トライアル実証実験の結果を踏まえ、また、2. 3. 項の見直しのプレゼンの結果、1 番優秀なシステムを提案したところに、二台分の実物試作費用及び数回の実験費用を東京都と国とが出して進める。(↑数百億以上を想定)

(一回目の実験では、猫や犬、さるなどを乗せて、前後での精密検査をする。)

ただし、運営が順調に進み、十分な利益がでたところで、東京都及び国に対して返納するものとする。

ANNEX-5 深海観光艇

日本のテンションワイヤーで固定
上下・東西南北の4方向で
コントロールセンターで制御

芯棒

複数のワイヤーで固定された「AIコントロールセンター」

おもりは、複数のクレーンで、海中で装着する。
互いに反対方向に折れ曲がる設定。

フックが折れ曲がる仕様:
おもりが海底に衝突すると慣性で観光艇がおもりにぶつかりフックが曲がる

重力和浮力を利用
細長い形状でも深海に到達できるのだから、完全な球形で、頑丈に作れば、おもりを使い、安全に深海に到達し、おもりを外し戻ってこれます。
特に動力を必要としない

観光客急増をにらみ空港と港湾の同時整備

小笠原村又はグアム島で乗船・下船し、クレーン船で曳航され、世界二位の小笠原海溝、世界一位のマリアナ海溝深海の旅を満喫する。
観光客は、透明なアクリル床にフェース枕のマットレスに寝そべて、床下を見たり、天井を見たりします。AIと母国語で会話をします。

小笠原海溝 (9801m)
小笠原村
南鳥島
グアム島
マリアナ海溝 (10920m)

上図は、下記の仕様に基づき、チャット GPT (AI) に作らせた画像です、皆様も下記の文章に基づき、そのままコピペするか、多少の味付け文章を加えて、AI 画像を作成してみてください。

関連資料として、以下の URL もご参照下さい。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0c1d83d682134c4b971b81a1163b3d4a.pdf

100人以上搭載の海溝などの深海に行って帰ってくる「深海観光艇」

(浮力ー重力バランスを調整し、海底へはおもり付きで1時間程度かかり、浮上するときも、おもりを外し1時間程度で浮上するもので、全方位カメラによって、またAIによる母国語での解説によって、深海底の旅を楽しむもの)

ー 該観光艇は、1万メートルの超高水圧に耐えられるよう「完全球体」の分厚い鉄板での二重構造(ハニカム構造)で、スクリュウ等の可動部はありません。

上と下に大きなフックがついており、下のフックはおもりを吊り下げ、上のフックは該観光艇を大型観光船に付帯した大型クレーンで吊り下げるためのものです。

100人以上の観光客を乗せた観光艇は、おもりを吊り下げた状態で、大型クレーンで深い海溝などがある海中に投入され、おもりにより海底まで2時間程度かけて到達します。

また、海底に到達したら、おもりが外れ(慣性力で自然に外れる)、該潜水艇は2時間程度で浮上します。

海底におもりが衝突するとそこで止まり、該観光艇は落下の慣性力でおもりに軽く衝突し(観光艇の浮力により、強くは衝突しない)、このときにフックが折れ曲がり(折れ曲がる仕様)、フック部が外れ、すぐに該観光艇の大きな浮力によって浮上に向かいます、

もしフック部が外れなかったら、該観光艇のフック部のみを切り離すシステム(一つが故障しても二つ目を作動させることができる二重切り離し装置)によって、該観光艇のフック部が外れて、浮上できます。

注：おもりは、海底から引き揚げたがれきや泥をコンクリートで固めたものを使います。

該観光艇には窓がなく、該観光艇の外周部には、高輝度LED照明と超高感度カラーカメラ各1000台以上、超高水圧に耐えられるよう分厚いガラス越しに設置され、また、二重構造の内部は全体が1000台以上のTVモニターで覆われていて、該カメラの映像とTVモニターの映像とが1；1で対応します。

尚、各TVモニターには境がなく、まるで自然に空を見上げたり、海中に顔をつけて覗く感覚です。

しかも、下側も透明なアクリルの床ごしに見えるので、まさに 360 度の海底映像がバーチャルではなくリアルで見られて、周辺に餌をまくことで、多くの種類の異なる魚が集まってくる様子が見てとれ、しかも浅いところから超深海迄楽しめるとなれば、世界初&世界最高のエンターテインメントとなるでしょう。

該観光艇の内部には、透明なアクリル製の床が中間に設置されていて、観光客 100 人の各一人ひとりには、フェース枕マットレスがプレゼント（後で記念品として自宅に送付）され、寝そべって上を見たり、顔をフェース枕にあてて、下を見たりします。

また、観光客のひとり一人に、マイクとヘッドホンが渡され、AI から母国語で解説を聞いたり、いろんな質問ができるようにします。

該観光艇の外球の大きさは 40m、内球（内容積の直径）30m、中央部には地球の内核のイメージで、15m の球体の AI コントロールセンターが存在します。

AI コントロールセンターは複数のワイヤーで突っ張る感じで固定され、1F には、東西南北の 4 か所のトイレ、医務室（医師と看護師が常駐）と事務室、会議室等、2F はイス席での観覧が可能な天井ガラス張り軽食喫茶店があります。

地階は、Ai 制御センター、複数の超大型のバッテリー（2 系統電源で、1 系統が故障しても正常に作動する。）1 週間分の酸素ボンベと食料の備蓄を行う

また、AI によって、空調や換気、気圧調整を行うほか、深海底で見える生物などの解説を、1 人 1 人の観光客に対し希望する言語で解説してくれ、質問にも答えてくれます。

＜小笠原海溝とマリアナ海溝の二つの深海観光スポットを作る＞

ヒマラヤ山脈と負けず劣らず人気なのが第二位の高さを誇る K2 で、志の高い登山家なら、両方を踏破してから死にたいと願うように、世界一深いマリアナ海溝（チャレンジ海淵）に行ったら、ぜひ世界第二位の小笠原海溝にも行ってから死にたいと思うに違いありません。（K2 には、それなりの味わいがあり、同様に、小笠原海溝にはそれなりの味わいがあると考えています。）

日米が連携して、同じシステムを、一つはグアムに拠点を置き、もう一つは小笠原村に拠点を設置し、それぞれの拠点に「観光艇」の数十システムを常備し、観光客は各拠点で乗船して、各観光スポットまでクレーン船で曳航してもらい、そこから深海の旅にでかけます。

深海底は昼も夜も関係なく暗いので、（将来的に全 AI 化し）24 時間の運行が可能になると考えています。

100%の安全な理由

1. バックアップ電源が2つあり、しかも、いざバックアップ電源を使おうとしたら、普段使っておらず、故障していた等のないよう、3系統の電源を順繰りに使うことで、作動確認を常に行うことができます。
2. 外球と内球の二重構造にし、外球と内球との間を高圧空気にし、常にAIが空気圧をチェックし、異常がないか確認をします。異常がない場合のみ、深海観光艇を運用します。（乗客は、異常のない深海観光艇に乗り換えます。）
3. タイタニックのようにならぬよう、もし岩盤等に衝突し、外球が浸水しても、内球の浮力だけで、浮上できるよう設計します。
4. おもりの下側に露出するように、フックと連動するロッドを設定し、おもりが海底や下側のおもりに衝突すると、ロッドが押し込まれ、フックが傾くようにします。また、第一おもりと第二おもりとの間は、藁で作った太い縄にし、24時間程度で薬品や微生物で縄が切れるようにします。さらに、深海観光艇の下側に（一故障しても機能する）二段階のおもり切り離し機構を設定します。

深海観光艇3重の安全対策

通常製品設計をする上で、人体に危害が加わる、あるいは発火や発煙の可能性のある場合では、一故障で発生しないようにする考え方を踏襲しており、ごくごく稀な二つの故障が偶然重なってしまった場合のみに、仕方なく許される、

現状のレベル4の実証実験は、何万か所で、何十年間続けても全く意味ない、なぜなら、偶発的なエラーを検出しているだけであり、そもそも一故障で人体に危害が加わる可能性のあるものを進めてはなりません。

低速自動運転かAIの判断を加えるとよい。

しかしながら、深海観光艇では、二故障が偶然に重なったからといって、不具合が許されることはなく、どんな状況下でも、常に100%の安全性が求められており、以下の施策を行う。

3系統の電源をAIが順番に使う。

二重構造の上に、空気圧で常に確認

万が一外球が浸水しても、浮上する

おもりの二段階切り離し機構付帯

深海観光艇
単独では、半分が海上にでる。

曳船用フック
港で乗艇し、船で曳航され、海溝へ

外球が浸水又は、おもり一個の場合は、わずかに浮力が勝り、少しだけ海上にでる。

おもりのボトムに衝撃が加わるとフックが傾く機構を付帯する。

第一錘

第二錘

二個目のおもりが投入されると、落下し始める。

薬品又は微生物で24時間程度で切れる仕様